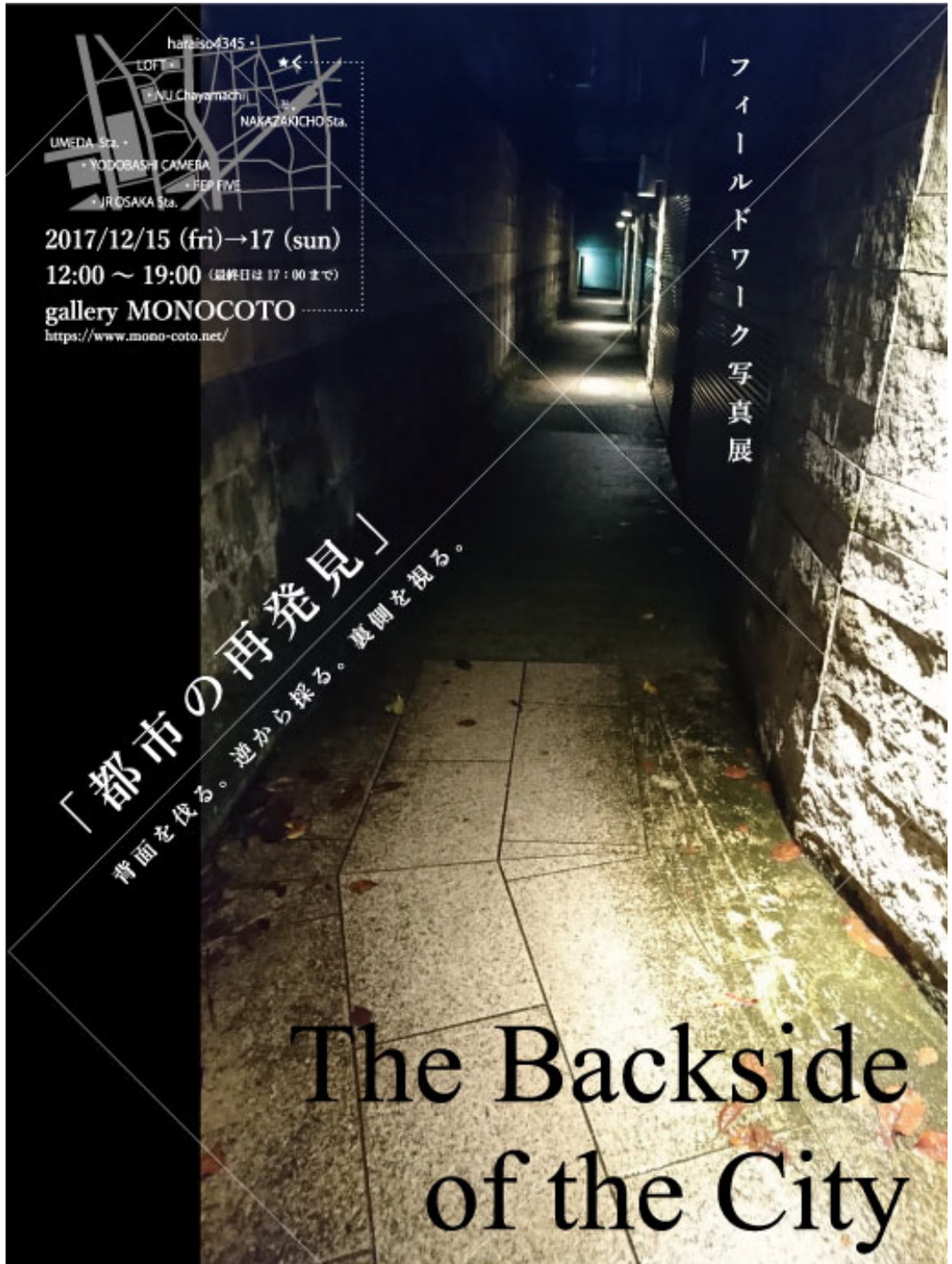

2017/12/15 (fri)→17 (sun)
12:00 ～ 19:00（最終日は 17：00 まで）
gallery MONOCOTO
https://www.mono-coto.net/

フィールドワーク写真展

「都市の再発見」
背面を伐る。逆から探る。裏側を視る。

The Backside of the City

主催　追手門学院大学地域創造学部［都市文化・文化創造コース］
✉backside.of.the.city@gmail.com

The Backside of the City ／都市の再発見

「新奇なものをつくり出すだけが創造性ではない。見慣れたものを未知なるものとして再発見できる感性も同じく創造性である。既に手にしていながらその価値に気づかないでいる膨大な文化の蓄積とともに僕らは生きている。それらを未使用の資源として活用できる能力は、無から有を生み出すのと同様に創造的である」

（原研哉『デザインのデザイン』岩波書店 2003，p.24）

地域創造とはなにか。地域とは，帰属の基層である。すべての帰属を失ってなお，離れがたく残るのは地域という場所である。その意味で，どこにも帰属しないという人はどこにもいない。
創造とは，再発見の結晶である。都市には，「既に手にしていながらその価値に気づかないでいる膨大な文化の蓄積」がある。すなわち，地域創造とは私たちの帰属する場所に蓄積された，膨大な文化の価値を再発見する営みである。
いかにそのような価値を見出すことができるのか。深く，広く，多様に，しなやかに，いかにその場所へのまなざしを手にすることができるのか。その方法の一つは，いったん立ち止まり，背面への／からの視線を持つことだ。「背面」とはなにか。この問いに無数の仮説を与える思考のプロセスこそが，「見慣れたものを未知なるものとして再発見できる感性」を磨く。
今回のフィールドワークでは，参加学生一人ひとりがそんな「背面」を求めて現場に繰り出した。むろん，易々と見つかるような表層に創造性の糸口などあるはずもない。彼／彼女らが見出したものは，ほんのかすかなきっかけにすぎない。だが，そのきっかけを手放すことなく，粘り強く，確実に手繰り寄せていくならば，いずれは未知なる都市の再発見にたどりつくかもしれない。
「フィールドワーク写真展」はその第一歩の記録である。

追手門学院大学地域創造学部［都市文化・文化創造コース］
井上典子・岩渕亜希子・草山太郎・佐藤友美子
田中正人・沼尻正之・善積京子

森本アリ Special Talk Live!
ちいさなまちのあそびかた

2017/12/15 (fri)17:00 ～ 19:00
gallery MONOCOTO
https://www.mono-coto.net/ ［入場無料・申込不要］
※席数に限りがありますので先着順とさせていただきます。

Guest Speaker
森本アリ氏プロフィール

1996 年 Ecole de recherche graphique（ベルギー / ブリュッセル）卒。音楽家。
神戸、塩屋の築 105 年の西洋館「旧グッゲンハイム邸」管理人として、家族と共に住みつつ、企業や行政とは一味違った管理運営を行う。塩屋の未来を考えるようになり「塩屋まちづくり推進会」で活動。
「塩屋百景」を立ち上げ写真集「塩屋百人百景」「塩屋百年百景」さらに「塩屋俳景」（2017/9/5）を発行。
単著に「旧グッゲンハイム邸物語 未来に生きる建築と、小さな町の豊かな暮らし」（ぴあ 2017/3/15）。
塩屋の町に 100 年後 200 年後もあまり変わらないでいて欲しいと願う。

主催　追手門学院大学地域創造学部［都市文化・文化創造コース］
✉backside.of.the.city@gmail.com